



学校だより

福島県立郡山支援学校
令和3年11月12日
令和3年度 第3号

学校経営・運営ビジョンに基づく、本校の取り組み状況をお知らせします。

学校教育目標

『一人一人のよさや可能性を広げ、「生活に生きる力」を育み、自立し社会参加できる児童生徒の育成を目指す。』

目指す子供の姿

主体的に生きる児童生徒

心豊かに生きる児童生徒

健やかに生きる児童生徒

主体的に生きる児童生徒

●小学部から高等部までの段階的・系統的な進路指導

進路指導部では、児童生徒のキャリア発達を促すための組織的な取組の一つとして「進路指導の手引き」の見直しを行いました。

進路指導は、就学前、小学部・中学部・高等部、さらには社会への移行まで、幅広く実践されているキャリア教育の充実が最も重要と考え、名称を「郡山支援学校のキャリア教育」に変更し、作成しています。

完成後は児童生徒の将来の自立と社会参加に向け、小学部・中学部・高等部段階のキャリア形成の取組を見直すための資料として活用したいと考えています。



●ICTを活用した学習環境の整備

小学部・中学部の児童生徒一人に一台、タブレット端末が整備されました。第2学期始業式では、感染症予防対策として、式の流れに沿って、前日に撮影した映像を学級ごとに視聴しました。タブレット端末を用いた儀式的行事は初めての取り組みでしたが、画面に映る校長先生に注目し、話に集中する様子が見られました。

また、各教室に一台ずつ、大型モニターと実物投影機が導入され、次のように活用されています。「タブレット端末の画面を大型モニターに映して画面を共有して見ることができます。」「タブレット端末の機能を使うことで、スイッチで操作することもできるようになります。」「毎日行う朝の会の順番をスライドにして、当番が自分で操作することで、司会の役割を果たすことができます。」「あいさつや名前を呼ぶ音声も予め録音して再生することができます。』



心豊かに生きる児童生徒

●安心安全な環境の整備と防災教育

避難訓練を実施しました。児童生徒たちは、校内放送や教師の話をよく聞きながら慌てずに落ち着いて避難することができました。校長先生からは、命を守るために必要な行動についてのお話がありました。また、避難場所に救護・医療的ケアスペースを設置し、非常時に備えて、発電機の動作確認も行いました。



●地域と連携した地域資源の有効活用「駅や電車を利用した校外学習」

JR郡山駅の職員の皆様のご理解とご協力により、車いすの種類や重量に見合ったスロープを準備していただき、電車を利用した校外学習を行っています。児童生徒たちは安心して駅や電車を利用することができ、経験の幅を広げる良い学習の機会となっています。



●互いのよさに気付く交流及び共同学習の推進

小学部

富田小学校の子どもたちと、手紙や自己紹介カード、ビデオレターなどを送り合い、それぞれのよさに気付く活動を行っています。



中学部

コロナ禍にあり、リモートによる実施となりましたが、地域の中学校と距離があっても分かりあえる状況作りを工夫し、相手を思いやる気持ちを育てています。



高等部

生徒会によるリモート交流は、代表者を2名とし、お互い顔が見える活発な意見交換の場となりました。今後は、高等学校と授業等の交流を実施する予定です。



健やかに生きる児童生徒

●つなぐ・つながる校内支援体制の整備

今年度より、校内相談の体制を新しく整備しました。学級の子どもたちについて心配な点が生じた場合や、家庭からの悩みの相談があった場合など、支援依頼に応じて、担任・学年・学部で情報を共有し合い、ケース会議を開いて、よりよい解決策を話し合っています。

ケース会議では、多くのメンバーで、個別の教育支援計画を活用し、子どもたち一人一人の、より良い支援の方向性を探っています。



●地域支援センターによる校外支援の充実

本校地域支援センターでは「地域支援アドバイザー」を中心に、県内の主に中通り、会津地方で身体に不自由さがある子どもたちの学びを支援しています。今年度は8月末までに23か所に出向き、研修や会議に参加したり、地域の学校等での取り組みを支援したりしています。

また、8月19日に「特別支援教育研修会」を開催し、地域の小中学校等の先生方25名を含む70名が参加しました。

未就学児の保護者対象の「キラキラ教室」は、今年度はHPでも公開しています。

